

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



出雲分教会

明治30年7月1日	赤川布教所設立
明治35年7月24日	県知事により布教所取消
大正9年3月	出雲宣教所設立
昭和2年5月5日	鎮座祭

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。
つなげよう、信仰の喜びを。

立教186年
6月号

活動
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。



教祖140年祭

育成講習会 開催

少年会

少年会(森本忠善団長)は、去る5月月次祭に合わせて「少年会育成講習会」を開催した。

祭典講話に代え、少年会本部委員・今井請一郎先生は、私たちが世話をしている少年会員は「未信者」だと話され、その少年会員たちには、それなりの言葉でなければ信仰もその喜びもなかなか伝わらない、ということを改めて考える機会となった。

また、午後の部(講堂で31人受講)では、「こどもに分かりやすい話し方」として、少年会本部部員・杉本先生より、具体的にどのような言葉が難しいのか、何を噛み砕けばいいのかなど、分かりやすく、丁寧に、参加者と話を交えながら相手に伝わる話し方のコツを学び、これからの少年会活動や、各教会でのお話の場で活用していきたいと感じた。
(講話要旨は次の通り)

いよいよ新型コロナウイルスも5類に移行となり、ようやく元の生活に戻りはじめました。コロナ禍にあつては、除菌や殺菌をしっかりとしようと言われて、まるで菌が悪者扱いされてしましたが、元々人間は菌と共生しており、体に無数の菌が住みついています。これらは常在菌と言われ、一番たくさんいるのはお腹の中で、ビフィズス菌・乳酸菌等、約5百から千種類、重さ2kg、これらを取り除くと2kgのダイエツトになります。しかし、そんなことをすると大変です。それらは、消化・吸収をたすけたり、体に害を与える菌を防止したり、私たちの体にはなくてはならない存在だからです。もともと人は菌をもっています。母親の産道を通して生まれる時に菌をもらい受けます。生まれてからは、育った環境の中で様々な菌を取り入れ、丈夫で健康な体を自らで造りあげていきます。生まれながらにして全く驚くべき努力をしているのは、この体で、私たちではありません。

神の妙なる思わくにより、又、その守護による。」とあります。
空気中には無数の細菌やウイルスが漂っていて、一回の呼吸で約5万個の細菌やウイルスが入ってきます。このコロナウイルスのように、体に害をなすものを排除するために、マスクなどをして予防しますが、それでも感染する可能性が誰にでもあります。
全ては神様のなさることで、私たちは神様任せです。無数の菌やウイルスに囲まれながら元気に生きています。これは実は奇跡ではないかと思えます。日々のご守護により生かされていることに気づき、それに感謝する。そして、お礼を申し上げると共に、親神様のお心に沿った、心と体の使い方をすることで健康に過ごすことができる。これが信仰のありがたさであり、喜びだと思えます。

さて、「コロナ」と聞いて連想するものは何でしょうか？今は「ウイルス」と答えると思います。しかしコロナが流行する前、私たち雪国の人は暖房機器製造メーカーの内田製作所「コロナ」が思い浮かびました。太陽のおかげで地球に生命が存在するように、「コロナ」が日本初のカーボン式石油ストーブを開発したことで日本人は冬の寒さをしのげるようになって世界一の長寿となったと思えるほど「社名」には自信を持っていました。
しかし、新型コロナウイルス感染拡大によって状況が変わりました。社名が新型コロナウイルスを連想させることから社員の家族や子供たちが学校やメディアで何気なく耳にする言葉に心を痛め、落ち込むことがあったという事が社長の耳に入り、これを受け特に社員の子供たちには当社で働く両親に誇りを持ってほしいとは是非伝えたくて、2020年に新聞の一面を使って全てひらがなで次のような広告を出しました。
コロナではたらくかぞくをもつ、
キミへ
まだまだ、せかいじゅうが、しんがたコロナウイルスで、たいへんなことになっているね。
そとであそべなくなったり、マスクをしなきゃいけなかったり、つらいこともたくさんあるとおもいます。
そんななかでも、わたしたちコロナは、くらしをゆたかにする、つぎのわが国をつくらうと、

きょうも、がんばっています。コロナではたらいでくれている、キミのおとうさんやおかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさん、おにいさん、おねえさんも、いっしょうけんめいです。みんな、じまんのしゃいんです。

いえにいたるときイメージとは、ちよっとちがうかもしれないけど。

もし、かぞくが、コロナではたらいているということ、キミにつらいことがあったり、なにかいやなおもいをしていたりしたら、ほんとうにごめんさい。かぞくも、キミも、なんにもわるくないから。

わたしたちは、コロナというなまえに、じぶんたちのしごと、ほこりをもっていきます。

キミのじまのかぞくは、コロナのじまんのしゃいんです。

かぶしきがいしゃコロナのしゃいより

この広告を出したことにより、たくさんの方の励ましの手紙や反響があったのですが、それ以上に「コロナ」で働

く社員たちや子供たちはとても救われました。又、この会社のために頑張ろうという気持ちになり、社員たちのモチベーションが上がって、みんな元気でやる気に満ちていたそうです。きっとそんな親の姿を見て、将来自分たちも親と同じ所で働くんだと思った子もいたのではないのでしょうか。

縦の伝道を考える上でとても参考になると思います。縦の伝道とは子供に信仰の喜びを伝えること。子供は親の姿や、周りの大人の姿をよく見えています。そして、親たちが楽しみ、喜んでしている事、一生懸命している事を見習って、自分たちもしようとするものです。又、自分の周りの常識で、大人たちはこういうものだイメージを固めやすいものです。

私は大学時代に小学校へ教育実習に行き、3年生を受けました。ある日、一人の女の子が「今井先生は一人暮らしなの？」と質問してきました。私が「違うよ、先生は自分の家から通っているから、家族と一緒に住んでいるんだよ。」と答えると、「結婚しているんだね。」と、目を輝かせて言いました。もちろん「まだしてないよ。」と答えたのですが、その子は少し間をお

いて、憐れむような顔をしながら「お気の毒に」と言ったのです。3年生の子にそう言われたのには驚きました。教育実習生とはいえ彼女にとって私は先生、結婚していて当たり前、それが結婚していないと分かって可哀そうだと思いますのでしよう。

また、うちの長女・ハヤがまだ保育園へ通っていた時のこと、お迎えに行ったとき玄関で長女の友達「ハヤちゃんのお父さんお母さんはなんでいつも笑っているの？」と言うのです。そんなに笑っているつもりはなかったのですが、その子にしてみたら、迎える親たちはだいたい忙しそうにしていて笑顔でいるイメージが無かった。そんな中、私たち夫妻はいつも笑っていたのが不思議だったようです。

本年、真柱様は年頭幹部会で、「家庭をはじめ、自分たちの関わる社会の中で、子供たちは大人の姿をよく見ているように思います。ありがとう、ありがとうなどの感謝の言葉からわずかな不足話まで、大人の何気ない一言でも、子供の心には、大なり小なり影響を与えます。また、大人が教えたこととその大人の行いが合わなければ、子供は疑問を感じます。皆さんもよくお

分かりだと思えますが、このことを、私たちはしっかり自覚して子供たちと向き合い、まず、一人ひとりが自らの成人を心がけ、心済まして、育成に取り組むことが大切であります。」とお話してくださいました。

おかさぎげにも「又一つ、第一の理を諭そう。第一には、所々に手本雛型を諭す事情の理の台には、日々という、日々には家業という。これが第一。」と記されていますが、おかさぎげは、おさぎげの理を拝戴してから仮席で「今日限りこれを心の定規として生涯通って下さいよ」という神様のお言葉で、ようぼくとしての心持ちが短い文章の中に凝縮されています。先程の部分は30歳未満のようぼくに付け加えられている最後の部分。ようぼくの心得で一番大切な所として日々の通り方、基本となるべきことを最後に教えて頂いています。ですから子供に信仰を伝えるということは、自分自身がまず信仰を高め、手本となるような通り方をしなければと思います。

二代真柱様は第1回少年会団長講習会に於いて、「伝道という上に於いて一番大切な補導者、補導者という言葉が悪ければ感化を与える人でもいいで

しよう。また指導者でもなんでもいいです。最も大切な補導者という者はこれは親なのであります。肉親なのであります。」と仰せ下さいました。

縦の伝道の主軸というものは、「親」なのです。親が信仰の喜びをもち、子供に伝えていく。親が信仰に対して、喜びをもたなければ、信仰の喜びは伝わらない。私たちの周囲には様々なことが起きています。その中には必ず親神様の親心があります。ですからその中から喜びを探して、感じ取り、その喜びを子供に伝えるためにいかに腐心し、努力をするかということが要の点だと言えます。

諭達第四号の最後の方に、「教祖お一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通じ、私たちがとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。」とご教示下さいました。縦の伝道が大切だということです。

親神様は陽気ぐらし世界実現をお望みになっている。そのためにはこの道を末代へとつなぐことが欠かせません。普段から、にをいがけ・おたすけ

を通して道を広めていくと同時に、自分の子供や孫をはじめとする次の世代にも、この信仰をしつかりと引き継いでいくことを怠ってはならないのです。

教会は、信仰ある家庭に育った子供たちに順調に教えが伝われば、この道の信仰者が減っていくことはないと思いますが、現実はなかなかうまくいっていないのが正直なところではないでしょうか。

ここで忘れてはいけないことは子供は「未信者」であるということです。教会の子供もそうです。子供は「未信者」です。要するに、この道の教えを説いて伝えなければ信者にはならないのです。これはようぼくも同じです。いずれなってくれるだろうと思っても、何も教えなければようぼくにならないのです。やはり子供にも、お道の教え・有難さを説いていかななくては いけません。

こういう話をすると、今は信仰の自由があるので子供に無理に継がせることはできないという人がいます。確かに信仰は無理にさせるものではありませんし、無理やり継がせるものでもありません。しかし、この道に引き寄せ

られ、救けていただいたお互いは、子供にお父さんお母さんはこうしてお道を勇んで通ってきて救かったんだということを、子供を「未信者」だと思つて伝えていかなければなりません。その結果、子供が信仰するかどうかは最終的に子供の自由に任せることになるうかと思いますが、信仰の喜び・有難さを伝えるのは親の使命だと言えるの



プロジェクターを使って具体的な言葉の説明

です。二代真柱様は昭和42年の年頭会議において、「皆さんの中には、親の信仰に反対しないまでも、ついて来ない子供をお持ちの方もあるだろう。世界へ出てしまつて帰つて来られなくなった子供をお持ちの方もあるだろう。長男だから教会で世話する、次男だから勝手にしろというような冷飯扱いされた



受講者に発表を求めるシーン

時代もあつたと思う。しかしながら、幾人子供を与えて頂こうと親の喜びを子供に伝えること、それは最も肝心なことでありながら難しいこととされている。しかし、難しいからと放つておくわけにはいかない。横の布教の忙しさにまぎれて縦の伝道を怠つていなかったか。子から孫へ伝わる血の流れのように、親の喜びは子供の喜びであり、子供の喜びは孫の喜びであるというように、この道は続いておつてこそ道と言えると申したい」と述べられました。

昭和42年といえは今から57年前です。本当に随分以前から親から子、子から孫へと教えを伝えていく、信仰の喜びを伝えていく、この縦の伝道の難しさはお道が抱えている長い課題であるということが言えますが、それは布教と同じくらい大切なことであると教えて頂いています。

この年祭活動の時旬に、改めて自分の子供や孫にも真摯に向き合い、声をかけ、信仰の喜びを伝え、教祖がつけられたこの道を引き継いでもらえるよう、共々に先を楽しみに努力させていただきます。ご清聴ありがとうございます。

《以上要約》

本部月次祭 登殿参列 始まる

教祖140年祭に向かう三年千日の年祭活動に入った今時旬、おぢばでは、本部の月次祭において、全教会長による「登殿参列」の機会を設けられた。

これは、全教会長が、本部の神殿の結界内で、よりぢばに近いところで、かぐら・てをどりを拝し、この年祭の三年千日の旬に、もう一度、心を新たに、勇んでしっかりとつとめきつてもらいたいの思いから設けられたもの。今回の「登殿参列」は、これまでよりも、より近くでかぐらづとめを拝せるように、人数を制限してつとめられ、笠岡大教会では、本年は5月月次祭を皮切りに8・9月、明年3・6・8・11月、再来年4・6月の計9回に各11人から14人の席をお与えいただいた。

去る5月26日(金)には、12人の教会長(別掲)が参列したが、午前7時半、詰所修練場に集合して最終説明・記念撮影(大教会長様は本部誘導係員のため不在)ののち、7時50分過ぎにマイクバスに乗り合わせて詰所を出発。登殿参列受付建物で受付を済ませ、本

部係員の誘導で参列場所に着座して、祭典の始まりを待った。

祭典後は、つとめ人衆が続いて教祖殿御用場に参進。つとめ人衆がお下がりになつてから、その場で、教祖・祖霊様を礼拝し、そののち、表統領よりあいさつがあり、おさがりを頂戴して詰所に帰り解散した(当日の詳細な時間の流れは、5月末配布の「連絡事項」を参照されたい)。

当日は、穏やかな天候の下、普段と違う緊張感の漂うなか、この機会に、教会長としての心定めや決意を親神様・教祖に、あらためて申しあげ、また、年祭期間中・活動中の経過などもご報告して、年祭に向かう残りの期間の実動の励みとした。

大教会だより

◎本部月次祭 登殿参列

立教186年5月26日登殿

- 鶴山 中島 誠 治
- 陽備 虫明 立生
- 金浦 今川 昌彦
- 海松ヶ岡 森本 忠善
- 東悠 田林 久嗣



- 吸江 赤木 素志
- 照陽 中村 道徳
- 新山邑 三島 渉
- 備中 岡田 誠
- 湯田原 高木 昭祥
- 川島郷 香取 雅人
- 作備 三宅 俊正



先日、岡山教区記念祭の司会を務めた。毎年5月1日に教務支庁で開催され、コロナ禍以前は200人を超える人たちでつとめられていた。2年ほどコロナ禍で中止になっていたが、昨年ようやく人数を制限し、プログラムも大幅に変更して再開された。その記念祭で

も司会を務めたのであるが、開始早々、教区長の礼拝号令で大失敗をやらかした。もう司会はこりこりだと思っていたのに「今年もまたK先生」と教区長から指名され、やや緊張の面持ちで開催日を迎えた。当日には、本部布教部長・松村先生の記念講演もあり、緊張してマイクテストをしていた。そのとき、大教会長様・奥様が司会席の方に来られ、「大役、ご苦労様です」と励ましてくださった。「ありがとうございます

います」とお応えした後、よせばいいのについ嬉しくなって「小指を立てて、マイクを握らないようにします」といらんことまで付け加えてしまった。すると、すかさず奥様が「両手でマイクを握らないようにしてくださいね」とナイスなツツコミをしてくださった。お陰で緊張感がほぐれ、閉会時には会場がどつとウケ、めでたく司会を務め終えることができたのである。有難いですね。

(V)

～わかぎのつどい～

6/24(土) 9:00～15:00頃まで
 場所:笠岡大教会
 対象:中学生
 内容:看板作成
 参加御供:300円

※ペンキを使います!
 汚れても良い格好で来てね!

お問い合わせ先
 弥高山分教会 岡崎まで

📁 詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- ・食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

部内教会・信者に徹底願います。

学生生徒修養会

GAKUSHU FOR HIGH SCHOOL

高校の部

感動の5日間を、おちばで。

令和5年

8.11 FRI ~ 8.15 TUE

主催：天理教教会本部 事務局：学生担当委員会